

平成 26 年度（第 3 期）

事業報告書

（自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日）

1. 事業概要
2. 助成事業
3. 電子書籍制作事業（助成受贈者の記録）
4. その他の事業

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団

1. 事業概要

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団は、平成 26 年 4 月 1 日に公益財団法人として 3 年目を迎え、本財団の公益目的事業である日本と韓国に関わる文化・芸術・歴史・社会・スポーツ等の分野における学術研究、創作活動、啓蒙活動、実践活動への助成。そのほか日本と韓国に関わる国際交流に対する助成を行なうことになっています。

平成 26 年 3 月 14 日（金）に開かれた理事会でご承認いただきました第 3 期事業計画に基づいて、第 3 期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）の助成事業を実施いたしました。

2. 助成事業

(1) 平成 26 年度助成申請の応募受付

今年度は郵送による「郵便申請」の受付のほかに、本財団ホームページから直接申請できる「電子申請」を併用しました。

平成 26 年 7 月 1 日から助成申請書の募集を始め、9 月 30 日に公募を締め切りました。その結果、申請総数は過去最多の 140 件を記録しました。選考委員会の承諾を得て、事務局内で 140 件の申請書の事前審査を行いました。その結果、全体の約半数にあたる 71 件に絞り、選考委員が約 1 カ月かけて 71 件の申請書を精査し、11 月 11 日（火）の選考委員会の本番に臨みました。

当日、選考委員会の議論の末、個人 7 件、団体 4 件、計 11 件が選出されましたが、面接が必要であると判断された団体 3 件の代表を 11 月 27 日（木）に本財団に呼んで、第 2 回選考委員会開催し、伊藤亜人選考委員長と鄭大均前選考委員長がインタビューを行ないました。

なお、今年度は選考委員会から韓昌祐特別助成（上限 500 万円）の推薦は上がりませんでした。

平成 26 年度 選考委員会・結果報告

～ 助成対象一覧 ～

受理番号	名前	所属	助成金額
021	ヘレン・リー (ヘレン リー)	延世大学アンダーウッド国際大学教授	870, 000 円
027	一般社団法人日本演出者協会 代表 和田喜夫 (ワダ ヨシオ)		2, 000, 000 円
028	原田 環 (ハラダ タマキ)	県立広島大学人間文化学部名誉教授	706, 000 円
036	NPO 法人アジア図書館ネットワーク 代表 岩崎輝行 (イワサキ テルユキ)		2, 000, 000 円
038	芹川 哲世 (セリガワ テツヨ)	二松学舎大学文学部教授	2, 000, 000 円
059	音楽で手をつなごうプロジェクト 日韓コンサート実行委員会 代表 小田もゆる (オダ モユル)		1, 830, 000 円
087	林 炫情 (イム ヒョンジ ヨン)	山口県立大学国際文化学部教授 ・国際化推進室室長	1, 500, 000 円
091	原田静香 (ハラダ シズカ)	東京大学大学院人文社会研究科 韓国朝鮮文化研究専攻博士課程	1, 000, 000 円
096	本田洋 (ホンダ ヒロシ)	東京大学大学院人文社会系研究科准教授	1, 000, 000 円
132	伊地知 紀子 (イヂチ リコ)	日韓海女文化研究会 代表 大阪市立大学大学院文学研究科教授	2, 000, 000 円
136	端野 晋平 (ハシノ シンペイ)	徳島大学埋蔵文化財調査室室長・准教授	977, 200 円
総計			4 団体 7 個人 (11 件) 15, 883, 200 円

(2) 公募の方法について

今年度は、7月上旬から朝日新聞出版ニュースサイト dot と統一日報および東洋経済日報などの在日コリアン媒体を併用しながら、公募広告・宣伝活動を行ないました。

7月7日(月)～13日(日)	朝日新聞出版ニュースサイト dot.
7月9日(水)	「統一日報」に公募広告掲載
7月21日(祝)～27日(日)	朝日新聞出版ニュースサイト dot.
8月1日(金)～31日(日)	朝日新聞出版ニュースサイト dot. 35文字の1行広告を掲載
8月4日(月)～10日(日)	朝日新聞出版ニュースサイト dot. (クリック数0.14% 約91万人のうち1,248人がクリック)
8月29日(金)	「東洋経済日報」に公募広告掲載

上記の期間、メディアによる広報宣伝活動を行なう一方で、公募用ポスター300枚と財団のパンフレット1,000部を配布しました。以下が、配布先です。

民団地方本部および韓国商工会議所	50か所
日韓親善協会・都道府県協会	42か所
在日世界韓人商工人連合会	46名
国立大学	87校
主要公立大学	42校
主要私立大学	70校

3. 財団誌制作事業（助成受贈者の記録）

（1）財団誌『青鶴』発刊の概要

旧財団法人の（財）韓哲文化財団の「寄付行為」に、助成事業のほかに論文集の刊行が事業として掲げてありました。論文集の刊行は、事業の柱の一つでもあり、財団法人として順守すべき行為でありました。

そこで「寄付行為」に準じた事業を遂行する目的と、過去の助成金受贈者の成長と助成金の使途に関する調査を目的に、平成21年度から財団誌『青鶴』を制作してきました。助成証書授与式から3年後の助成受贈者を取材、調査をして財団法人の活動の記録としてまとめてきました。

（2）平成26年度電子書籍『青鶴6』の報告

平成26年度も、これまで制作してきた紙媒体の財団誌『青鶴』を電子書籍に切り換えコストダウンを図り、平成23年度の助成金受贈者3個人、4団体を取材、調査の対象としました。

7月上旬に編集会議を開き、6名のライター、2名のカメラマン、デザイナー1名、編集者1名、校閲1名のほかに電子書籍化を担当したウェブ会社の（株）ページワンが加わり、電子書籍『青鶴6』の制作事業を始めました。

編集会議から、『青鶴6』の取材・執筆、「青鶴学術論集」のための論文の所収、最終的な校閲、PDFによるアップに至るまで約7カ月を要しました。

平成26年度電子書籍『青鶴6』で検証した助成金受贈者は、以下の通りでした。

ショートショートフィルムフェスティバル&アジア代表	別所哲也
美術作家	呉 夏枝
国際芸術交流 海の道代表	竹田陽子
考古学者・徳島大学名誉教授	東 潮
日韓比較憲法研究会代表	國分典子
徳島大学総合科学部准教授	樋口直人
東日本大震災 在日コリアン被災体験聞き書き調査代表	赤坂憲雄

4. その他の事業

(1) 助成証書授与式

毎年、3月14日に都内ホテルで開催されてきた本財団の助成証書授与式は、助成受贈者のプレゼンテーションの場でもあり、また駐日本国大韓民国大使館・韓国文化院文化院長をはじめ日韓親善協会中央会会長、在日本大韓民国民団中央本部団長、在日世界韓人商工人連合会会長、在日本韓国人連合会会長などが列席し、日韓両国をつなぐ各界有識者の日韓親善と交流の場となっています。

平成26年度の助成証書授与式は、平成27年3月13日（金）17時から韓国文化院「ハンマダンホール」にて開催されました。

(2) 記念レセプション

本財団の助成証書授与式のあと、恒例となった記念レセプションが催されました。この記念レセプションには過去に助成を受けた（財）韓哲文化財団時代の助成OB、OGも参加して、日韓のテーマで繋がった各年度の助成OB、OGが分野の垣根を越えて、交流が行なわれています。

また記念レセプションの中に、「祝賀コンサート」を設けてあり、過去の助成受贈者の音楽家による演奏があり、それぞれの成長を発表する場にもなっております。3月13日の祝賀コンサートには、平成25年度に韓昌祐特別助成を受贈した米国・ニューイングランド音楽院留学中のヴァイオリン奏者金潤妃さんが招かれました。

平成26年度の記念レセプションは、平成27年3月13日（金）18時30分から韓国文化院「ハンマダンホール」と同院「ホワイエ」にて開催されました。